

児童・生徒の現状・課題

決められた課題やテーマに対して、意欲的に取り組むことはできる。しかし、自ら進んで取り組むことや、自分にとって必要なことを考え、どのようにすれば解決良いかという力は弱い。また、教員の指示がないと動き出せないこともある



学び続ける力を育むための重点目標

○学び続けることができるように、課題の設定・学習環境の選択・次の学習に繋がる振り返りの3つの観点を重視して学習に取り組むことができるようにする。



具体的な手だて①

課題の設定(学習の導入)

単元の内容を確認した上で、児童からの疑問を集約し課題を作ったり、目指したいゴールを設定したりする時間を作る。

具体的な手だて②

学習環境の設定

課題解決のために、必要な場や資料、学習のグループのパターンを設定し、児童に選択させながら学習を取り組めるようにする。

具体的な手だて③

適切なふりかえりの設定

個人の振り返りでは、ワークシートに書いたり友達同士を交流させたりしながら、学年や単元に応じて振り返りの観点を設定し、自らの進捗状況を確認できるようにする。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・週案に重点項目で取り組む内容と日時を記載し、全体に共有し、自由に授業を見合う時間を設定する。
- ・共有フォルダを作成し、汎用性があるデータなどを保管し、職員全体で使用できるようにする。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	85%	85%	%
②取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など、学び方を自分で選び、学習をすすめることができる。	90%	95%	%

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	88%	93%	%
②問題や課題に取り組んでも上手くいかない時には、どうすればよいか、児童が選択し行動できるよう、解決の方法を示している。	89%	95%	%

総括(5月)

昨年度と同じく、「児童が学びのハンドルを握る」授業づくりをテーマに授業改革を行っている。昨年度の成果として、教員がどのような立場でいけば良いのか、どのような授業デザインをすれば良いのか等、国語や社会はある程度理解することはできた。今年は算数、生活、体育など、校内研で取り組めていない教科を中心に行うとともに、各学年の「学びの段階表」や「ICT活用表」を利用することで、研究も積み重なるよう取り組んでいく。

総括(1月)